



# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2014.8 August vol.30

六月定例議会

## 地方の人口減少を止める 子どもたちが育つ環境づくりと女性や若者が働く環境づくり

6月11日から7月4日まで定例議会が開かれ、補正予算案及び「島根県いじめ問題対策連絡協議会条例」案など22件が知事から提案され、すべて可決しました。

### 憲法解釈の変更に 反対する意見書提出

一方で、民主県民クラブはじめ11名の議員で集团的自衛権行使を容認する憲法解釈の変更に対する意見書を提出しました。安倍政権による集团的自衛権行使に反対の意思表明を提案しましたが、多数の自民党議員により賛成少数で否決されてしまいました。

また、今回も一般質問に立ち、次の質問をしました。



議場で一般質問

成講座、父親に対し絵本を通して子育てへの参画を促す読みメンブrosジェクトを県内各地で行っている。平成24年度に、しまね子育て絵本と称して300冊をワンセットとして、市町村に3セット、約900冊ずつを無償で長期貸し出してきている。これを各

子どもオンブズパーソン 社会情勢の変化に伴い、子どもたちを巡る課題は様々にあって、解決にあたっては力を抜くことが出来ません。子どもたちが安心して育つ環境づくりに、もっと子どもたちの声をしっかりと受け止め、問題解決の取り組みを進めていくことが必要です。その取り組みに子どもオンブズパーソン制度があります。



江津市波子海岸でアスファルト舗装を見る

技術力と創意工夫で地域に貢献 瓦製造で有名な株式会社丸惣では、石州瓦の効率的な瓦葺きを行なう混せ葺きの色調調整技術を開発し、色の組み合わせや瓦の使用比率についてシュミレーションできる技術を開発しています。

地域づくりと連携した文化施設 島根県文化芸術センター(グラントワ)は、開館から9年目を迎えますが、年間来場者数の目標数である30万人を毎年超えており、人口規模の比較では国内有数の数字を誇っています。

地域に根差した施設を目指しています。 来年の10周年を機に、さらに

ブックスタートは、イギリスではじまった活動で、赤ちゃんや保護者に絵本を開く楽しい体験と一緒に絵本を手渡し、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる活動です。ブックスタートは単に子どもに絵本を読み、本に親しませるだけでなく、親子のふれあい、人とのふれあい、コミュニケーション能力を育てることに役立っていますし、さらには学力にも影響を及ぼしています。

市町村が幼稚園、保育所、公民館などを通して家庭に貸し出し、乳幼児を含めた親子読書の推進に取り組んでいる。ブックスタートに取り組めていない自治体に対して、どのような働きかけや支援を行っているのか。

建設環境委員会県内調査 建設環境委員会が5月29日、建設環境委員会の県内調査を石見地域で行いました。今回は、委員会の調査テーマである「技術力と創意工夫で地域に貢献する建設産業対策」地域づくりと連携した文化施設の在り方について調査しました。

地域包括ケアシステム 高齢になり医療や介護等が必要な状態になっても、適切なサービスを利用して、尊厳を保持しながら、自立した日常生活を送ることはすべての県民の願いです。少子高齢化

が進む中で、この願いを実現するには地域における医療、介護、予防、生活支援サービス、住まいを切れ目なく一体的に提供する体制の構築が急がれています。 国では、2025年を目途に、地域の包括的な支援・サービス提供体制として地域包括ケアシステムの構築を推進しています。そして、高齢化の進展は都市部と町村部では差があり、また地域状況によっても大きな差があり、そのため、地域包括ケアシステムは保険者である市町村や



澄川喜一センター長はじめ関係者に聞く

## とまちゃん通信

都道府県が地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要とされています。

●市町村がケアシステムを構築していく上で、モデルとなるような事業を県が実施し、市町村のシステム構築を支援していく必要があるが、考えを聞く。

部長 県では昨年度から、専任スタッフが市町村に出かけ、地域包括ケアの取り組み状況について意見交換し、介護や医療だけでなく、介護予防や生活支援なども含めた事例の把握に努めている。

また、県内7圏域で、市、医師会、病院等を拠点とし、在宅医療における多職種連携の取り組みを推進するためのモデル事業を実施している。この事業は、各実施主体が認知症、リハビリ等のテーマを設定し、課題解決を図る中で、地域の在宅医療を支える多職種が顔の見える関係をつくることを目指している。

県は、こうした取り組み事例を市町村に紹介し、地域の実情に見合った地域包括ケアシステムの構築ができるように支援していく。

●看護や介護の人材と質の確保が重要だが、それに向けた取り組みについて聞く。

部長 訪問看護師については、新たに訪問看護師を雇用する事業所に対して現場で研さんを積む間の人件費の助成、新任の訪問看護師や事業所の管理者に対して基本的な業務や知識を取得するための研修などの取り組みを進めている。

介護職員には、中高年の就業を促すため、資格取得

に必要な研修の受講経費等の支援、新任職員の定着を図るため、介護の基礎的な知識や技術を学ぶ研修の受講経費等の支援に取り組んでいる。

さらに、医療、介護にかかわる多職種が参加する在宅ケアの質の向上を図るための合同研修会などを開催し、幅広い知識や技能を身につけてもらっている。

### 人口減少問題の解決策は

5月9日の新聞各紙には「自治体の5割が若い女性が半減し、将来消滅の可能性」との記事が掲載されました。これは日本創成会議が発表したもので、2040年には、島根県では自治体の8割が将来消滅すると報告しています。島根県にとっては衝撃的な報告です。そして、日本創成会議は、魅力ある地方の拠点都市を作り、出生率を上げるための対策を提言しています。それには何よりも若者の雇用確保と労働環境の改善、特に女性職場の処遇改善が大きな力だと私は考えます。

国の政策を待つまでもなく、島根の生き残りをかけても、県もあらゆる機関を総動員し、県民・事業者と一緒に、島根の女性が島根でいきいきと活躍できる環境づくりに取り組むべきです。

●知事は島根の女性が社会で活躍できる環境づくりに向けて、何にどう取り組む考えか。

知事 県としては引き続き、女性が社会の中で活躍でき、そして生活と仕事、ワーク・ライフ・バランスがとれるような様々な施策を展開していきたい。

### 関西の先進地調査

松江市議会の議員とともに、関西地域の調査に5月27、28日の2日間出かけました。

川西市では子どもオンブズの取り組みについて調査しました。子どもオンブズの取り組みの先駆的な自治体で、このところのいじめ問題から視察が多いとのことでした。

子どもオンブズパーソンの取り組みは、秋田県、埼玉県で制度化していますし、今、滋賀県も立ち上げようとしているそうです。まだまだ自治体に広く浸透していませんし、制度を作った自治体も少ない状況です。制度の中身で問題になる

### 最近の話題から

6月14日

#### 足もとを見つめる

私たちが捨ててしまったもの忘れてしまったものをも一度、見直し、足元を見詰め直して暮らしを大事にする、そのことをモットーに大森の地である石見銀山生活研究所代表の松場登美さんのお話を聞きました。小さな声でもその声を集めれば大きな声になる、その力で、捨て去ろうとしてい



松場登美さんの話を聞く

のが、オンブズパーソンの権限がどこまで及ぶのかということですが、話を聞いて、オンブズパーソンの専門相談員などの豊富な人材が必要だということも感じました。子どもたちの問題に深く関わるには、やはり



子どもオンブズについて聞く

る大事なものを守っていくことも話されました。

### 7月3日

#### 医療現場の声を聞く

病院に勤務する皆さんと日ごろ感じていること、働きやすい職場作りについて意見交換しました。小さな声でもその声を集めれば大きな声になる、その力で、捨て去ろうとしてい



病院職員と意見交換

換しました。皆さんからは、夜勤が多くなっていること、休みが取れないこと、正規職員の枠が少なく臨時職員など非正規職員が多いことなど、医療現場の声に職場環境改善の必要性を痛感しました。

専門性を持った人が必要です。川西市の場合、そうした人材が確保され15年にもなる制度が続いている要因だと感じました。

高槻市の中央図書館では、高槻市が平成18年から実施しているブックスタートの取り組みをはじめ、図書館事業について調査しました。

今、ケータイやスマホをはじめ、子どものメディア依存が問題となっているとき、ブックスタートによって幼いときから本に親しむことで、読書の面白さ、本を読み聞かせることによる親子のふれあいやコミュニケーション能力を養うなどの効果が期待できます。

### 7月4日

#### 女性の声を政治に

議会最終日の朝、初めて、女性の県議3人で街頭演説しました。安倍内閣による集団的自衛権行使容認に向けた憲法解釈変更の閣議決定を受け、集団的自衛権行使に反対する立場での発言と今議会の取り組みについて市民の皆さんに訴えました。



女性議員で朝の街宣活動

### 7月7日

#### 海江田代表に物申す

民主党の海江田代表が島根



海江田代表と意見交換

鳥取県に生まれ、鳥取県議会浜田妙子議員の事務所まで鳥取県に住む女性の皆さんと意見交換されました。私も参加し、今の政権は女性活用戦略と言っているが、産休も育児休暇も介護休暇も恵まれた女性だけのことになっている、非正規をなくし、行政が関わることでできる医療や介護、保育などの現場で働く皆さんの処遇を良くすることに力を入れてほしいと意見を述べました。